

令和六年度 中学生の「税についての作文」

野田市長賞

税金なんて

野田市立木間ヶ瀬中学校 第三学年 山田 瞳

消費税なんて、どうして払わなければいけないのだろう。買い物をする時、値札に目を向けた。大きく数字が書かれていたが、「安い!」と思わせる値段だった。そして手に取ろうとしたその時、気付いてしまったのだ、その下に小さく書かれた「税込み〇〇円」という文字に。聞くと税込価格は本体価格に本体価格の十パーセントをプラスした値段だと言うではないか。なぜ税込価格で書かないのか、疑問だ。しかしその前に「消費税」とは何なのか。前は八%であったが今は十%だ。なぜ増えたのだろう。

まず、「税金」がどこで使われるのかを考えてみた。自分はアレルギー体質だ。そのため昔からよく病院に通っていた。病院に行くたびに保険証と受給券とやらを出すように母から強く言われていた。この二つを出すだけで安くなるのだと言っていたが本当であった。受給券は十八歳未満が持つことができ、税金で負担してもらえするというものだった。自分の受給券を見てみると、自己負担金「通院」「保険調剤」全て無料と書いてあるではないか。驚いた。まさかあの税金がこのようなところで使われていたなんて。あんなに煩わしいと思っていた消費税が今までずっと私を支えてくれていたなんて。これでは消費税を払わない理由はないではないか。これからは喜んで消費税を支払うとしよう。

もう一つ、疑問がある。なぜ八%から十%に上がったのだろう。今思い出したが、昔は受給券を出してもタダにはならなかった。安くはなるもののお金を払わないわけではなかった。だから初めて「〇〇円です」と言われなかった時は思わず「え、タダなんですか?」と聞いてしまったものだ。話を戻そう。消費税が上がることにについて調べ、わかったことはこうだ。日本は速いスピードで高齢化が進んでいる。そのため社会保障の費用が増え続けているそうだ。だがこれからは十八歳以下の子どもや高齢者だけでなく、すべての世代を対象とする社会保障にするために、二%増税をしたそうだ。子どもだけでなく、すべての人が「受給券」のような税金による恩恵を受けられるようになれば、どんなに助かる人が増えるだろうか。今現在、自分は十四歳で、受給券が使えている。けれど、これは自分以外の人達が色々な場面で税金を払ってくれているからできていることなのだ。これまで、たくさん税金に助けられてきた。自分にとってこれからも身近な存在であり続ける消費税。自分が払ったその十%のお金が、誰かの十八年を支えているのだと思うと嬉しくてたまらない。自分が今まで支えられたのと同じように、今度は自分が誰かを支える番だ。

「受給券」というものをすべての世代の人達が使える社会を実現するために、すべての人が税金を払う。協力プレイだ。自分も協力する一員になるために、感謝、そして今まで支えられた恩を大事に生きていこうと思う。